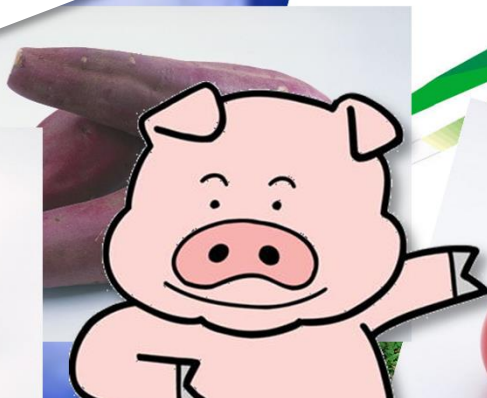
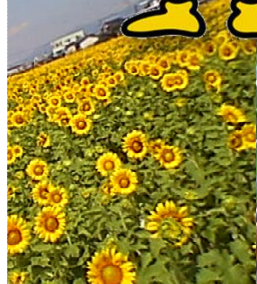
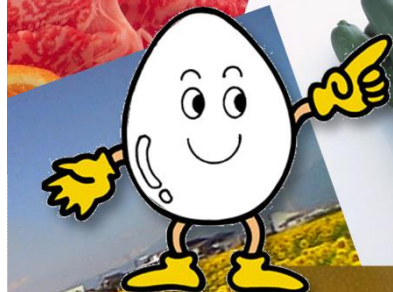


統計で見る



九州農業の概要

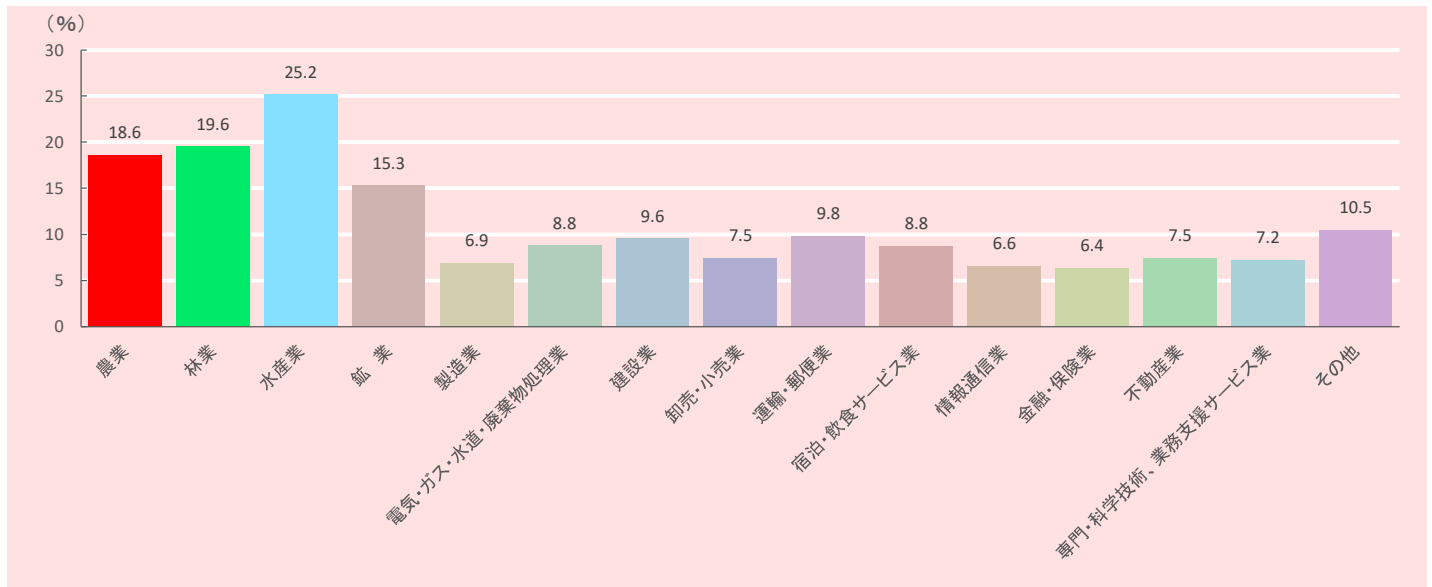


令和6年9月
九州農政局統計部

農林水産省

●九州は全国の食料供給基地となっています。

●九州における産業別にみた生産額のシェア（令和2年度）



資料：内閣府「県民経済計算」

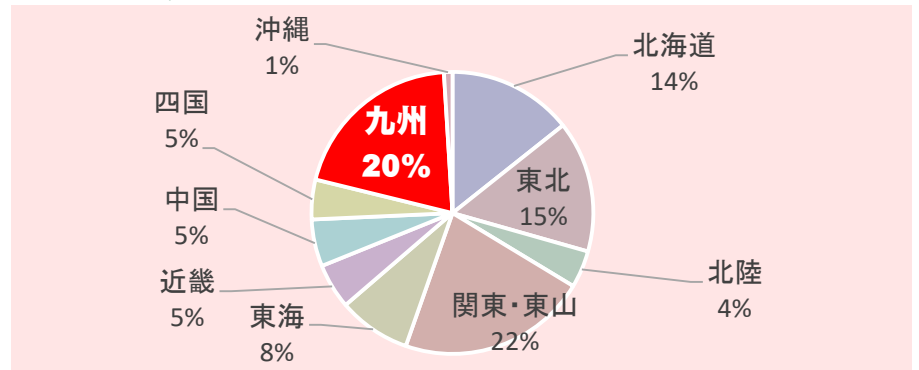
総面積、総人口、主要経済指標が概ね1割程度を占めていることから、九州は「1割経済」といわれています。しかし、農業部門では全国の約2割を占めており、九州では農業のウェイトが大きいことがわかります。

九州産の野菜は、九州以外の地域へ多く出荷されており、特に関東や近畿地方への出荷割合が高くなっています。

九州で生産される主な農畜産物の全国シェアを見ると、ブロイラー、茶、肉用牛、いちごなどで高くなっており、多彩な品目を有する九州は日本の食料供給基地となっています。

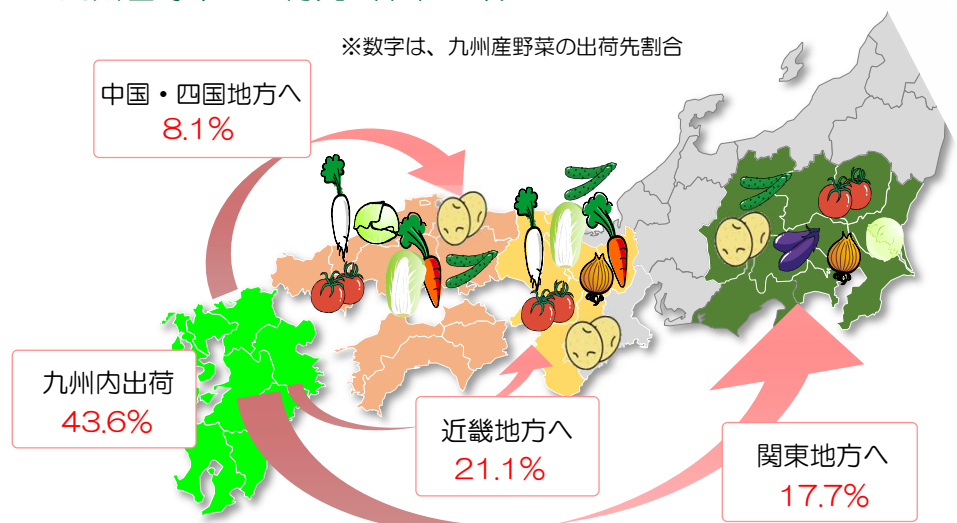
県別にみると、いずれの県においても畜産部門が上位に位置しています。

●農業産出額の全国シェア（令和4年）



資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計（都道府県別推計）」

●九州産野菜の出荷先（令和4年）

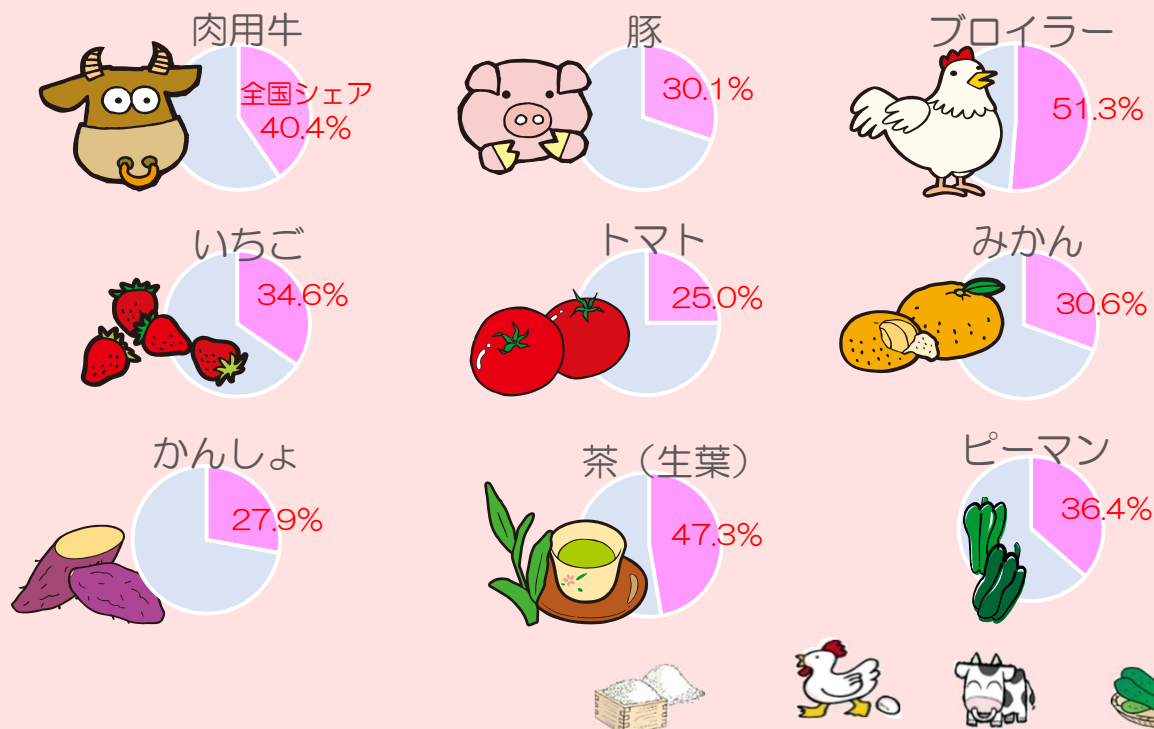


資料：農林水産省統計部「青果物卸売市場統計」

※農業産出額とは...

農業産出額は、その年の農業生産活動によって生み出された品目別の生産量に、品目別の農家庭先販売価格を乗じて算出されたものです。農業生産の実態を金額で評価（比較）することができます。

●全国シェアの高い九州の主な農畜産物（令和4年農業産出額）



〈参考〉上記以外の九州の主な農畜産物の全国シェア → 米：10.0% 鶏卵：13.1% 生乳：8.7% きゅうり：23.1%

資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計（都道府県別推計）」

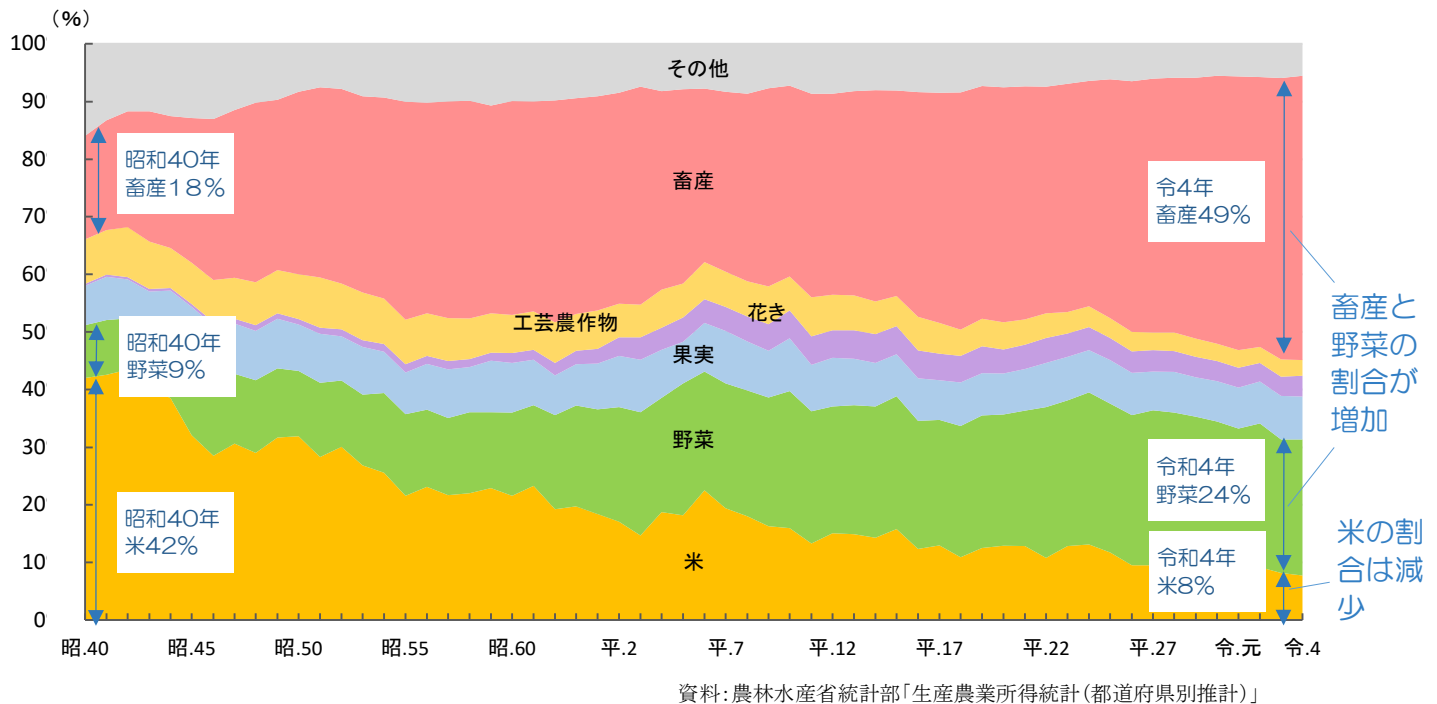
●県別産出額の上位品目（令和4年）（単位：億円）

順位	都道府県 合計	九州	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島
1	米 14,015	肉用牛 3,199	米 328	米 229	肉用牛 275	肉用牛 452	米 172	肉用牛 826	肉用牛 1,228
2	生乳 7,917	豚 2,042	いちご 242	肉用牛 182	豚 136	トマト 376	肉用牛 153	ブロイラー 762	豚 909
3	肉用牛 7,912	ブロイラー 2,022	鶏卵 111	たまねぎ 172	いちご 127	生乳 299	豚 108	豚 520	ブロイラー 889
4	豚 6,775	米 1,408	ぶどう 100	みかん 123	ばれいしょ 103	米 277	生乳 81	きゅうり 163	鶏卵 316
5	鶏卵 5,716	鶏卵 750	肉用牛 83	ブロイラー 96	みかん 95	豚 265	ねぎ 81	米 142	米 169
6	ブロイラー 3,940	いちご 699	生乳 78	いちご 89	米 90	いちご 159	ブロイラー 58	鶏卵 113	かんしょ 164
7	トマト 2,302	生乳 690	なす 55	豚 51	ブロイラー 75	みかん 147	鶏卵 46	ピーマン 110	茶（生葉） 154
8	いちご 2,019	トマト 576	豚 54	きゅうり 32	鶏卵 54	メロン 117	ぶどう 33	生乳 82	ばれいしょ 141
9	ぶどう 1,925	みかん 476	ねぎ 50	アスパラガス 24	たまねぎ 50	すいか 114	トマト 32	かんしょ 67	さとうきび 128
10	りんご 1,680	かんしょ 310	みかん 46	れんこん 21	生乳 46	ブロイラー 114	カボス 31	トマト 58	生乳 88

資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計（都道府県別推計）」

●九州は米を中心とした農業から、畜産と野菜を中心とした農業へと変わってきています。

●九州の農業産出額部門別構成比の推移（昭和40年～令和4年）



九州の農業産出額の部門別の構成比をみると、畜産は昭和40年では18%でしたが令和4年には49%に、野菜は9%から24%と大幅に増加しました。

一方、米は42%から8%と大幅に減少し、米を中心とした農業から畜産、野菜を中心とする農業へと推移しています。

その結果、農業産出額の全国上位10道県に昭和40年では九州は1県も入っていませんでしたが、令和4年は畜産や野菜の生産が盛んな鹿児島県、熊本県、宮崎県の3県がランクインしています。

全国上位20市町にはその3県から8市町がランクインし、うち宮崎県都城市は4年連続で全国1位となっています。

●農業産出額の全国上位10道県（令和4年）

全国順位	都道府県	農業産出額
1位	北海道	12,919
2位	鹿児島県	5,114
3位	茨城県	4,409
4位	千葉県	3,676
5位	熊本県	3,512
6位	宮崎県	3,505
7位	青森県	3,168
8位	愛知県	3,114
9位	栃木県	2,718
10位	長野県	2,708

(参考)
九州他県の順位と農業産出額

順位	都道府県	農業産出額
16位	福岡県	2,021
23位	長崎県	1,504
24位	佐賀県	1,307
26位	大分県	1,245

資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計（都道府県別推計）」

●農業産出額の全国上位20市町（令和4年）

全国順位	都道府県	市町村	農業産出額	全国順位	都道府県	市町村	農業産出額
1位	宮崎県	都城市	9,113	11位	熊本県	熊本市	4,569
2位	愛知県	田原市	9,004	12位	栃木県	那須塩原市	4,555
3位	茨城県	鉾田市	6,557	13位	熊本県	菊池市	4,185
4位	北海道	別海町	6,253	14位	愛知県	豊橋市	4,114
5位	新潟県	新潟市	5,348	15位	群馬県	前橋市	3,889
6位	静岡県	浜松市	5,220	16位	鹿児島県	大崎町	3,842
7位	青森県	弘前市	5,044	17位	鹿児島県	南九州市	3,619
8位	千葉県	旭市	5,011	18位	岩手県	一関市	3,506
9位	鹿児島県	鹿屋市	4,601	19位	鹿児島県	出水市	3,496
10位	鹿児島県	曾於市	4,575	20位	北海道	北見市	3,357

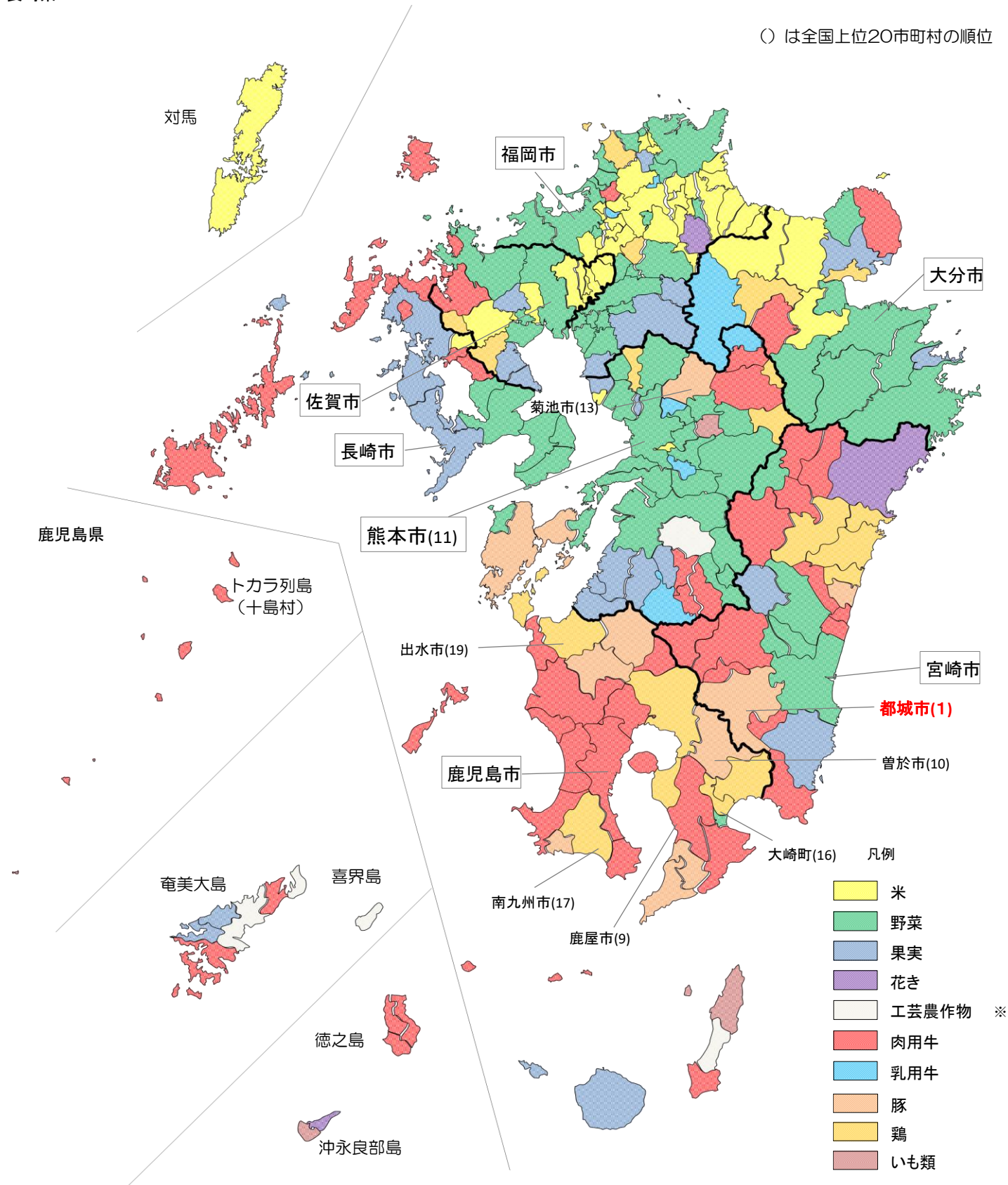
資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」

●九州北部は稲作、中央部は野菜作、南部では畜産が盛んです。

●市町村別にみた農業産出額の最も多い部門（令和4年）

長崎県

○ は全国上位20市町村の順位



与論島

資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」

※工芸農作物とは、茶、さとうきび、なたねなどが含まれます。

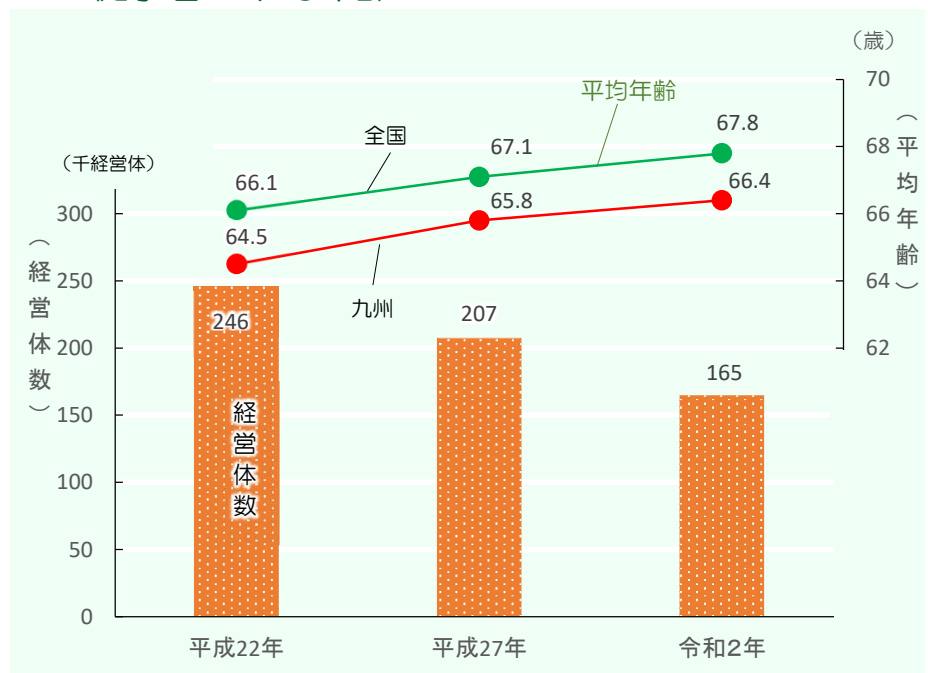
●農業従事者の高齢化や農業経営体の減少は続いています。

九州の農業経営体数は、平成22年から令和2年までの10年間で33%減少しています。また、主に農業に従事した者（基幹的農業従事者）の高齢化が進行しており、平均年齢では全国をやや下回るものの、65歳以上の占める割合が10年前から7ポイント以上増えています。

また、65歳以上の農業経営者の経営耕地面積が全体の半分以上を占め、そのうち後継者がいない経営者の面積割合が59%となっています。

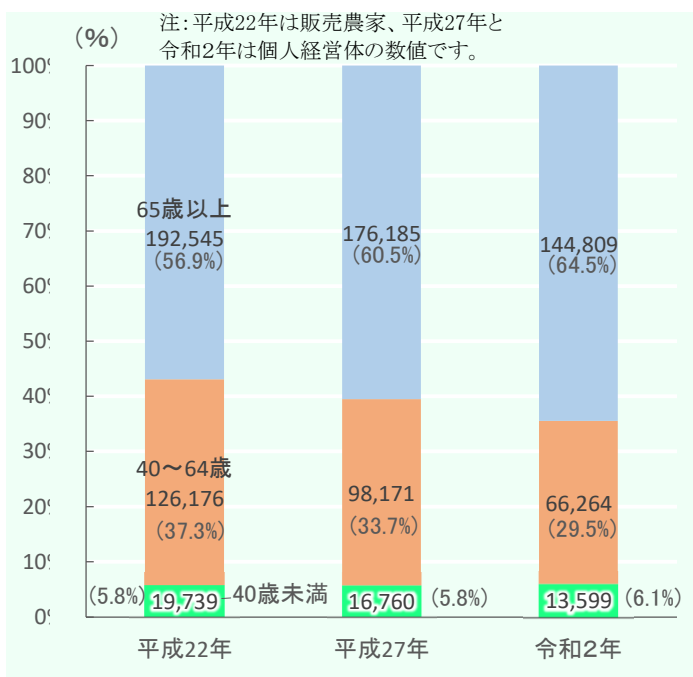
注：基幹的農業従事者の平均年齢は平成22年は販売農家、平成27年と令和2年は個人経営体の数値です。

●農業経営体数の推移（九州）及び基幹的農業従事者の平均年齢



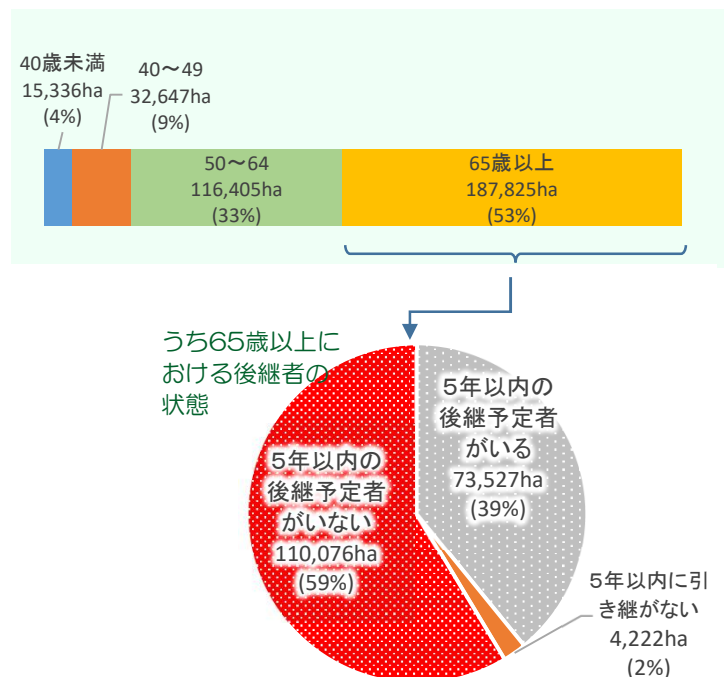
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」（以下同じ）

●基幹的農業従事者の年齢別構成割合の推移（九州）



注：平成22年は販売農家、平成27年と令和2年は個人経営体の数値です。

●農業経営者の年齢別経営耕地面積（九州）（令和2年）



※農業経営体とは...

農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭羽数が、一定の基準以上の事業を行う者をいいます。

※基幹的農業従事者とは...

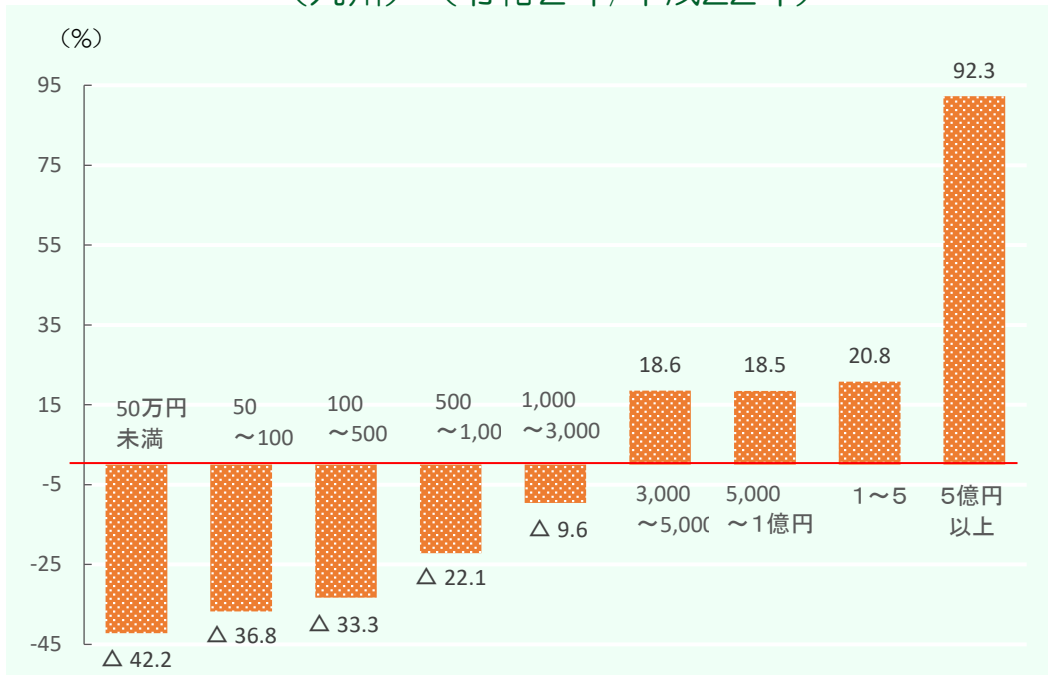
個人経営体（平成22年までは販売農家）の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者（家事や育児が主体の主婦や学生等は含まない）をいいます。

※個人経営体とは...

農業経営体のうち、個人（世帯）で事業を行う経営体をいいます。なお、法人化して事業を行う経営体は含みません。

●規模の大きい農業経営体は着実に増加しています。

●販売金額規模別農業経営体数の増減率 (九州) (令和2年/平成22年)

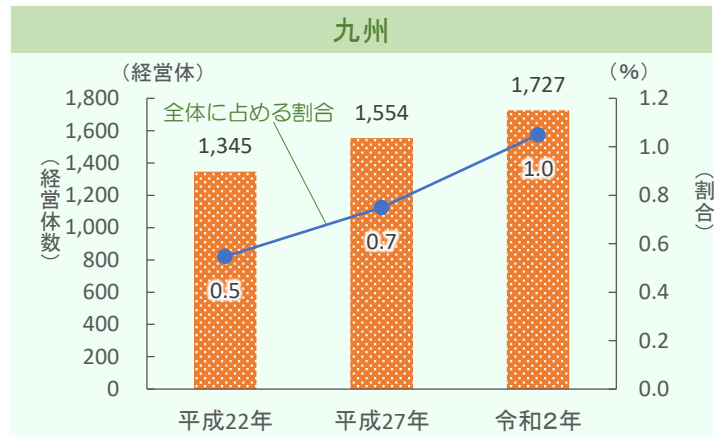
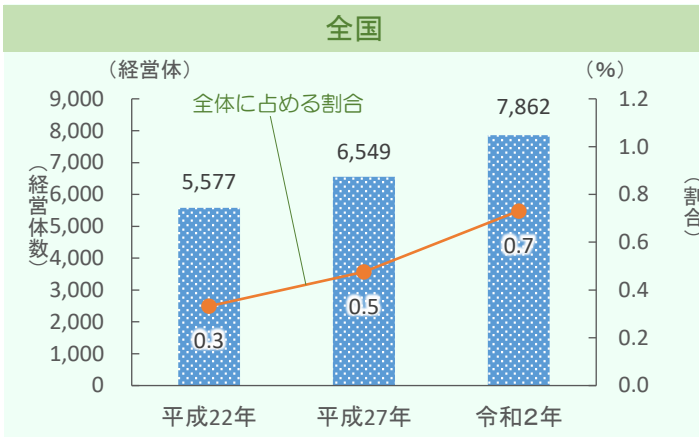


資料: 農林水産省統計部「農林業センサス」(以下同じ)

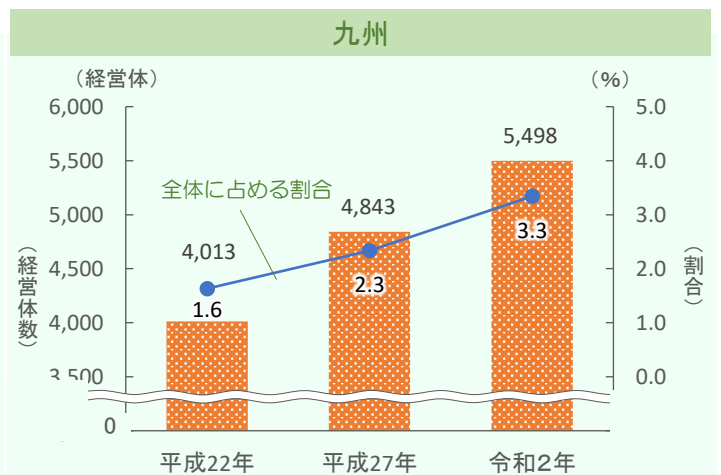
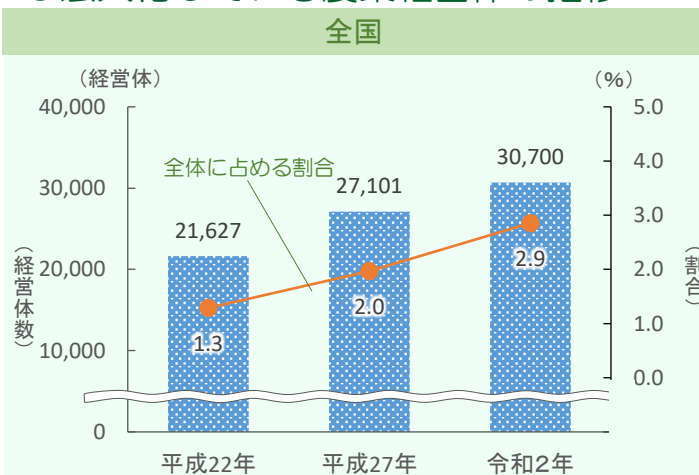
九州の販売金額規模別の農業経営体数をみると、販売金額3,000万円以上の大規模な経営体数は増加しています。

また、農業経営体数が減少する中、農業経営体に占める法人経営体の割合が増加し、着実に法人化が進んでいます。

●販売金額1億円以上の農業経営体の推移

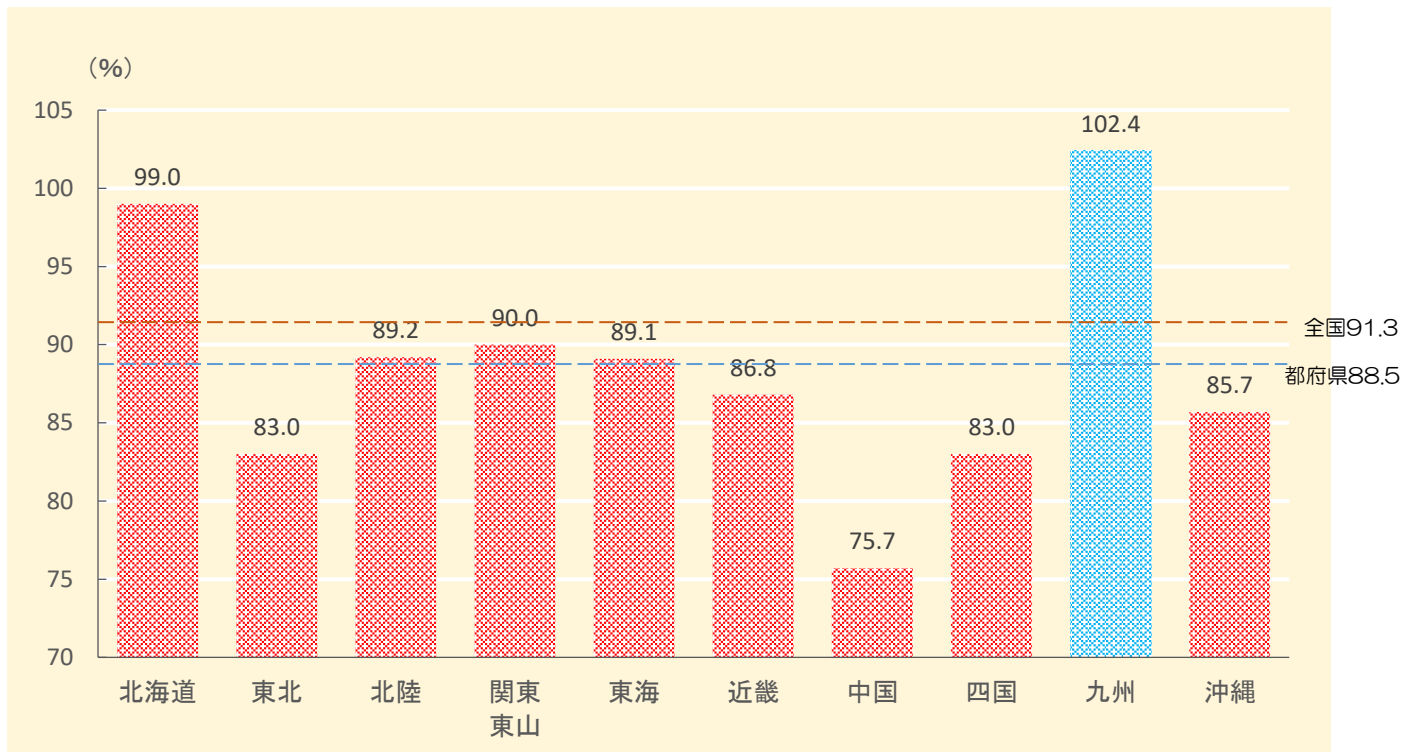


●法人化している農業経営体の推移



●農地の利用度は全国で最も高い水準です。

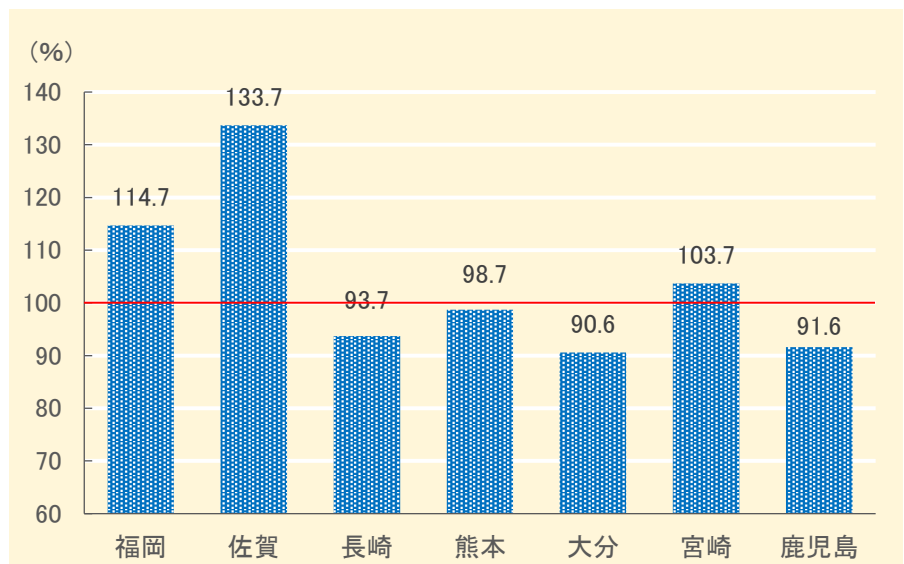
●地域別耕地利用率（令和4年）



資料: 農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」

九州の耕地利用率は、二毛作が盛んな地域であることから、全国平均を大きく上回っています。九州各県別にみると、福岡県や佐賀県では水田を活用した裏作麦、宮崎県では飼料作物の作付けが盛んに行われているため、これらの県で高くなっており、九州では農地が効率よく利用されていることがわかります。

●九州各県別の耕地利用率（令和4年）



資料: 農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」

※耕地利用率とは...

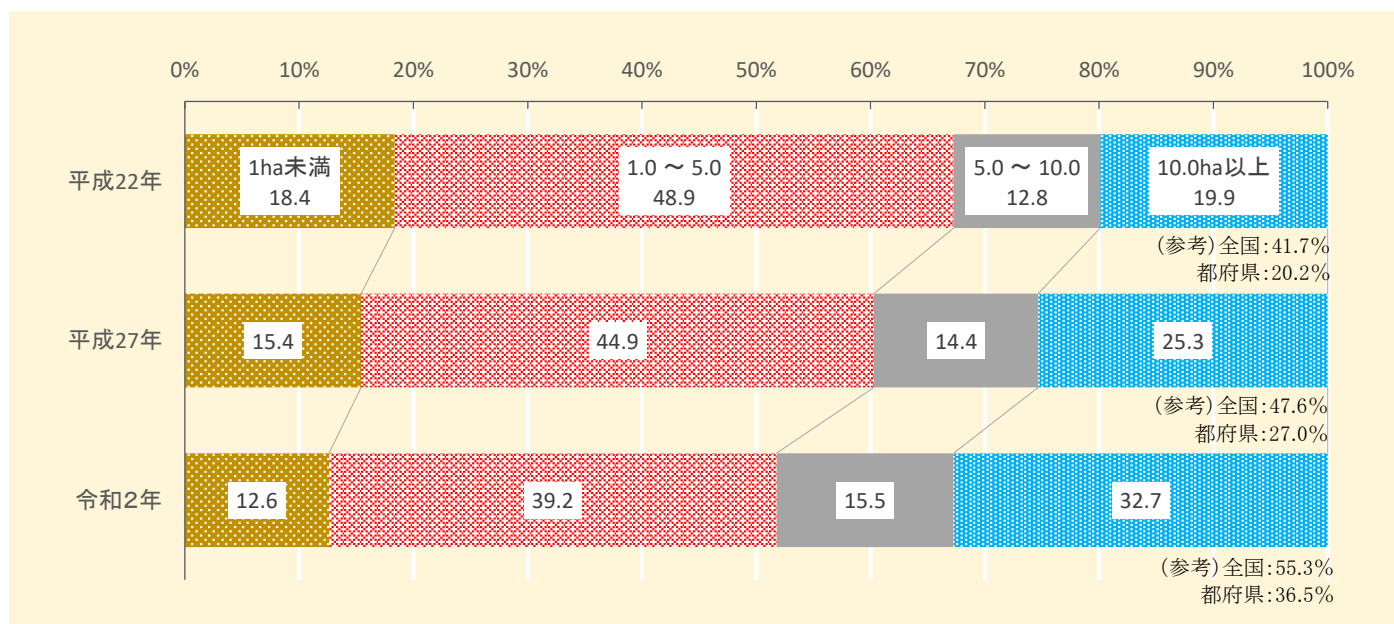
耕地とは農作物を栽培することを目的とした土地のことをいい、耕地利用率は、 $(1 \text{ 年間の作付延べ面積} \div \text{耕地面積}) \times 100\%$ で出されます。この割合が高いと耕地を有効利用しているということになります。

※二毛作とは...

同じ耕地で1年間に2回作物を栽培することです。

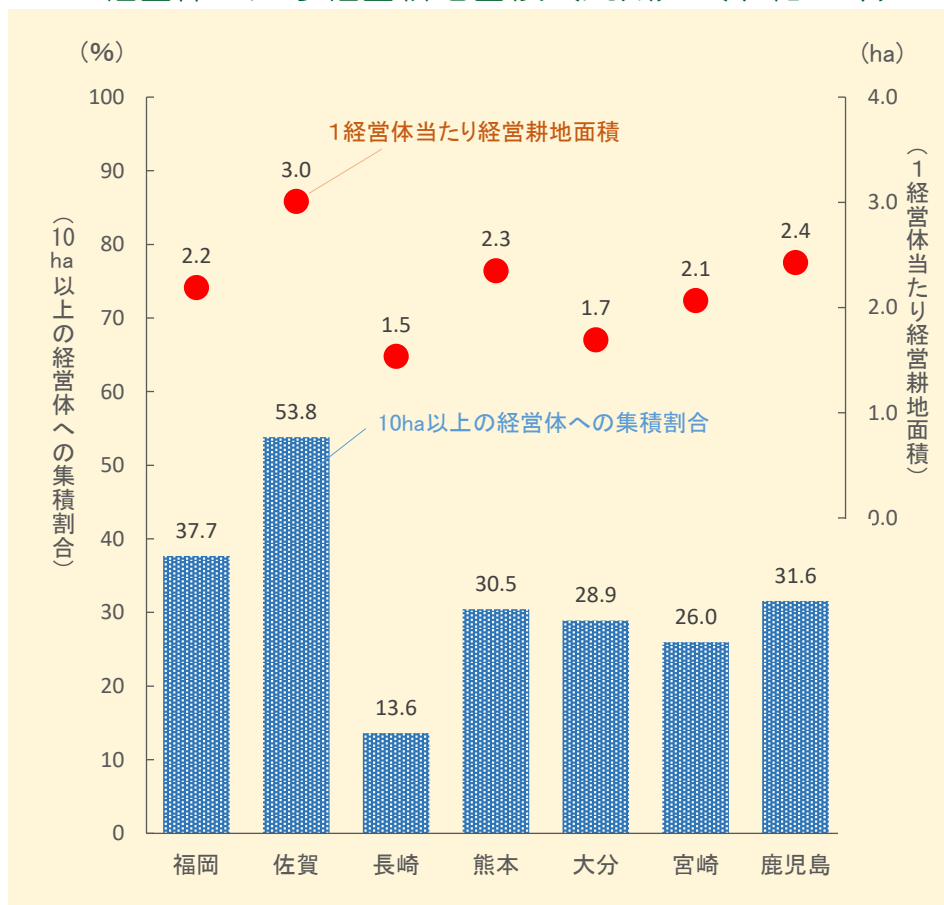
●規模の大きい経営体の農地集積割合が高まっています。

●経営耕地面積規模別にみた集積割合（九州）



資料: 農林水産省統計部「農林業センサス」

●10ha以上の経営体への集積割合と 1経営体当たり経営耕地面積（九州）（令和2年）



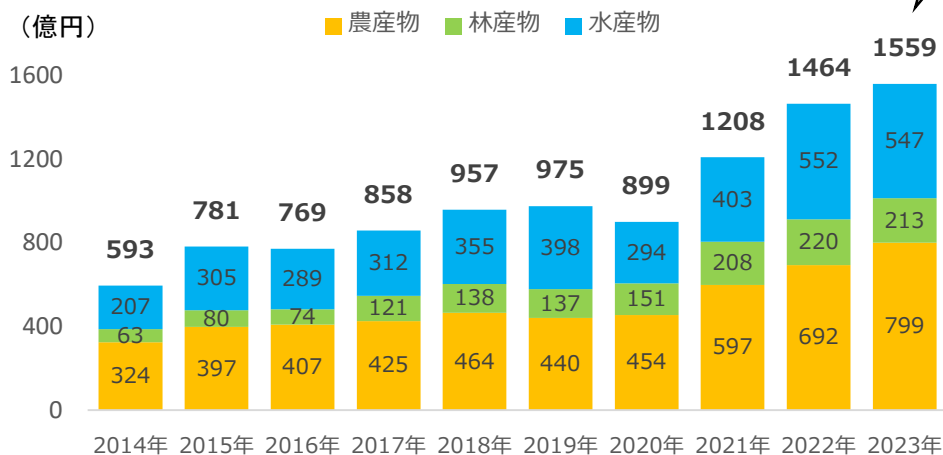
資料: 農林水産省統計部「農林業センサス」

経営耕地面積規模別の集積割合を年次別にみると、10ha以上の経営耕地がある経営体が集積する面積の割合が増加しています。これは全国及び都府県も同じ傾向となっており、農地の集積が進み、経営体の大規模化が進んでいることとなります。

10ha以上の経営体への集積割合を九州各県別にみると、集落営農組織等による農地集積が進んでいる佐賀県が最も高く、次いで福岡県、鹿児島県の順となっています。

●農林水産物等の輸出は増加しています。

●農林水産物・食品額の推移（九州地域税関分）



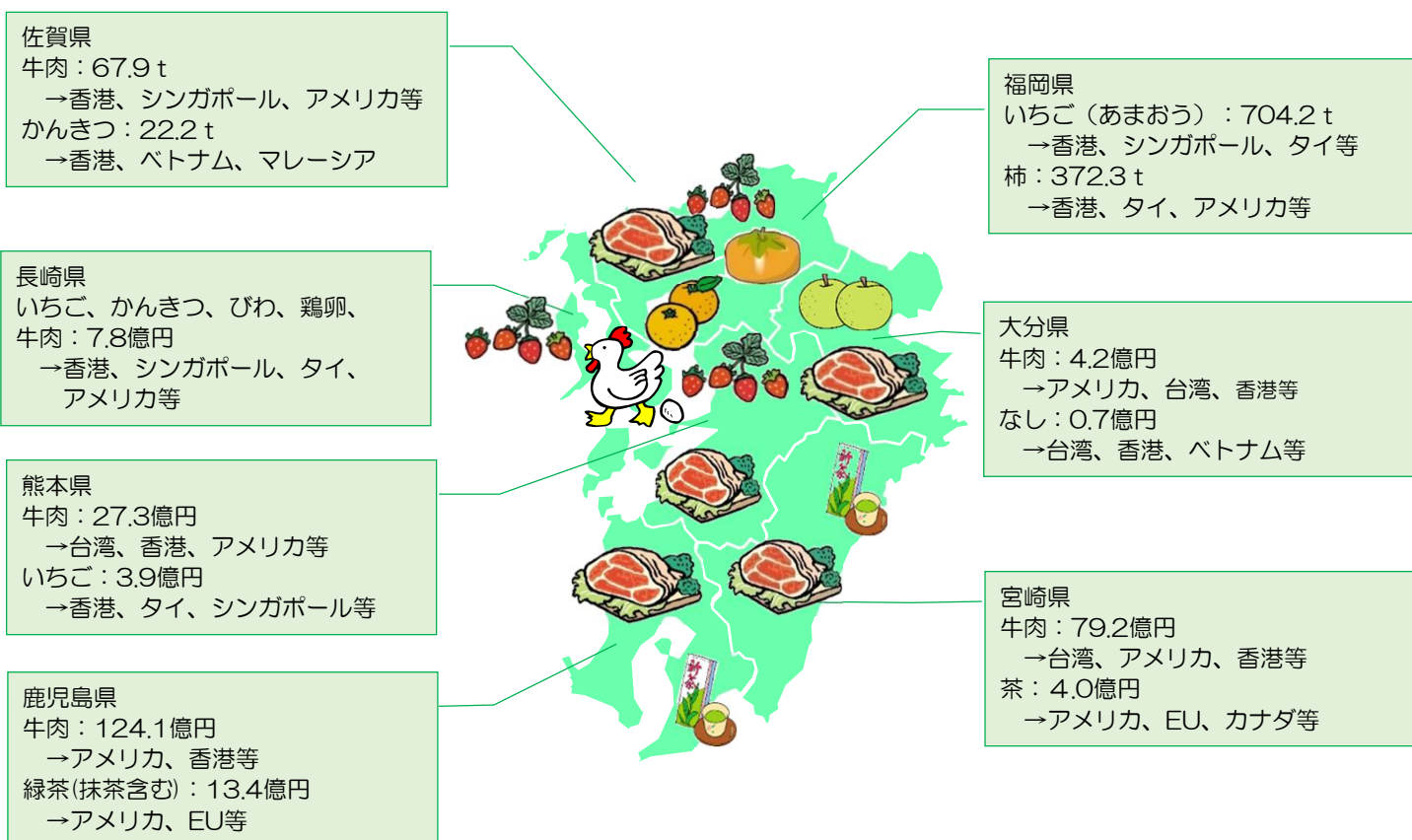
資料:九州農政局「見たい！知りたい！九州農業2024」
(財務省貿易統計をもとに九州地域の港からの輸出額を九州農政局で参考集計)

対前年比6.5%増
過去最高額を更新

九州では、地理的条件を活かし農林水産物等の輸出の拡大に取り組んでおり、3年連続増加しています。

主な品目では、牛肉、いちご、茶などの農産物が、香港、シンガポール、台湾などの国、地域へ輸出されています。

●九州各県の主な農畜産物の輸出（令和4年度）



注:長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県は金額ベース。

資料:九州農政局調べ(各県からの聞き取り)

●「美しく活力ある農山漁村」実現のためにさまざまな取組が行われています。

むら

～「ディスカバー農山漁村の宝」優良事例紹介～

令和5年度
第10回選定地区

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。

株式会社 筑前町ファーマーズマーケットみなみの里（福岡県）

ー かまど炊きごはん一筋15年ー



概要

- ・直売所・町産米や大豆の加工所・農村レストラン・弁当工房を運営。競争を意識して「ここにしかないもの」にこだわり、レストランでのかまど炊きごはんの提供の他、かまど炊きごはんと伝統食が入った弁当の製造販売を実施。
- ・町産のくず米有効活用のため、パン工房にて米粉パンや米粉ピザの製造を実施。米粉パンは町内の幼稚園の給食にも使用。

成果

- ・売上は、約7.2億円（平成30年度）から約8.2億円（令和4年度）に増加。売上の約2割をレストラン、弁当工房とパン工房の売上が占め、町産米の消費拡大に貢献。
- ・地域農家から仕入れる弁当の材料代は、約450万円（平成21年）から約1,100万円（令和4年）に増加し、農家の所得向上に寄与。

資料：農林水産省農村政策部「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（以下同じ）

上記は全国版で選定された地区ですが、九州内において応募のあった事例の中には、これら以外にも優れた取り組みがあることから、九州の地域資源を活用した優れた取り組みについて選定し、広く発信することにより他地域への横展開を図ることとしています。

そして、令和5年度九州農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」選定審査委員会では、次の3地区を選定しました。

県・市町村名	地区・団体・個人名	取組概要
長崎県 対馬市	有限会社丸徳水産	藻場の喪失（磯焼け）により魚介類が激減している状況を踏まえ、海藻類を食い荒らす食害魚（イスズミやアイゴ等）を資源として活用し、磯焼け対策・生態系保全に寄与。独特のくさみから利用価値が低かった食害魚を「食べる磯焼け対策」としてメンチカツ等に加工。販路を島内土産店やスーパー、学校給食へと広げるとともに、藻場再生事業として、ヒジキの育成や藻場再生の現場を巡る「海遊記」ツアーを事業化し、子供連れの観光客や修学旅行客で令和4年の事業開始以来、600名以上の参加実績。
大分県 宇佐市	宇佐ジビエファクトリー （有限会社サンセイ）	有害鳥獣の処理・加工・販売を一貫して行うほか、知識と実技をマスターできる日本初のジビエ処理研修施設を設立、ジビエが全国スタンダードとなることを目標に、県内外の事業者にも製造技術を公開。鮮度が良くても人間の口に適さない繁殖期の雄や加齢鹿・猪の肉をベッTFードとして供給するなど、令和4年の年間処理頭数は1301頭（鹿926頭猪375頭）と大幅に増加。社会科学見学やインターンシップも実施し、命を無駄にしないサステナブルな活動として食育にも貢献。
宮崎県 都城市	有限会社徳重紅梅園	有機肥料を主体とした徹底した土作りによる梅栽培、地域に伝承される道具や製法を守る加工法を、半世紀以上にわたり信念として実施。取組の結果、町内地域グループにおいて有機梅生産の取組が定着、有機梅生産組合の結成に至る。大淀川源流に整備した梅園4haは過疎化対策と景観保護にも貢献。土鍋で煮詰めて作る梅肉エキスや梅干しで元気になったとのお礼の声に励まされ、子供の健康を心配する顧客に少しでも安価な商品提供に努力したいとの考え。

九州各県別主要指標

九州管内農林水産統計指標(令和6年6月1日現在)

項 目	単位	年次	全国	九州	九州のシェア等	摘要(資料名)
総土地面積	k m ²	R5	377,975	注3 42,230	11.2	「令和5年(10月1日時点)全国都道府県市区町村別面積調」(国土地理院)
耕地面積	ha	R5	4,297,000	506,300	11.8	「作物統計(面積調査)」(令和5年)
耕地率	%	R5	11.5	12.0	注2 0.5	//
耕地利用率(田畑計)	%	R4	91.3	102.4	注2 11.1	「令和4年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率」
農業経営体数	経営体	R2	1,075,705	164,560	15.3	「2020年農林業センサス」
うち法人数	経営体	R2	30,707	5,498	17.9	//
経営耕地のある1経営体当たり経営耕地面積	a	R2	305	219	注2 △86a	// (経営耕地総面積/経営耕地のある経営体数)
総農家数	戸	R2	1,747,079	247,411	14.2	「2020年農林業センサス」
うち販売農家数	戸	R2	1,027,892	156,940	15.3	//
基幹的農業従事者数(個人経営体)	人	R2	1,363,038	224,672	16.5	//
// 平均年齢	歳	R2	67.8	66.4	注2 △1.4歳	//
集落営農数	集落営農	R5	14,204	2,205	15.5	「令和5年集落営農実態調査」
農業産出額	億円	R4	90,147	18,208	20.2	「生産農業所得統計」(令和4年)
水稲作付面積(子実用)	ha	R5	1,344,000	145,300	10.8	「作物統計(面積調査)」(令和5年)
飼養頭数	乳用牛	頭	1,356,000	102,100	7.5	「畜産統計調査」(令和5年2月1日現在)
	肉用牛	頭	2,687,000	977,400	36.4	//
	豚	頭	8,956,000	2,818,000	31.5	//
	採卵鶏(種鶏除く)	千羽	169,810	23,459	13.8	//
	ブロイラー	千羽	141,463	74,113	52.4	//

項 目	単位	年次	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島
総土地面積 注1	k m ²	R5	4,988	2,441	4,131	7,409	6,341	7,734	9,186
耕地面積	ha	R5	78,400	49,900	45,200	104,300	54,000	63,700	110,700
耕地率	%	R5	15.7	20.4	10.9	14.1	8.5	8.2	12.1
耕地利用率(田畑計)	%	R4	114.7	133.7	93.7	98.7	90.6	103.7	91.6
農業経営体数	経営体	R2	28,375	14,330	17,936	33,952	19,133	21,117	29,717
うち法人数	経営体	R2	871	349	387	1,077	718	758	1,338
経営耕地のある1経営体当たり経営耕地面積	a	R2	219	301	153	235	169	206	243
総農家数	戸	R2	41,351	18,645	28,282	47,879	31,954	30,940	48,360
うち販売農家数	戸	R2	27,187	13,293	17,329	32,529	18,099	20,304	28,199
基幹的農業従事者数(個人経営体)	人	R2	38,077	19,015	25,107	51,827	21,496	31,570	37,580
// 平均年齢	歳	R2	66.7	65.9	65.4	65.4	70.1	65.9	66.8
集落営農数	集落営農	R5	560	505	103	391	462	89	95
農業産出額	億円	R4	2,021	1,307	1,504	3,512	1,245	3,505	5,114
水稲作付面積(子実用)	ha	R5	32,800	22,200	10,000	30,000	18,300	14,700	17,200
飼養頭数	乳用牛	頭	10,700	1,970	6,170	43,800	13,300	13,400	12,800
	肉用牛	頭	23,400	52,400	91,700	139,100	52,800	260,200	357,800
	豚	頭	78,800	85,400	194,600	338,000	149,700	818,200	1,153,000
	採卵鶏(種鶏除く)	千羽	3,430	200	1,942	2,555	960	2,790	11,582
	ブロイラー	千羽	1,185	3,949	3,024	3,969	2,447	28,254	31,285

※注1:「総土地面積」の、福岡県、熊本県、大分県、宮崎県及び鹿児島県は、県境をまたがる境界未定地域の面積を含みます。

※注2:全国値との差を表示。

※注3:「総土地面積」の九州値は、県別の合計。

※その他:統計値は、四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合があります。



九州農政局統計部統計企画課

電話:096-211-9111 (内線4923)

九州農政局ホームページアドレス <https://www.maff.go.jp/kyusyu/>